

経尿道的膀胱腫瘍切除術におけるアミノレブリン酸が 脊髄くも膜下麻酔施行後の血圧変動に及ぼす影響

研究目的

アミノレブリン酸は表在性膀胱腫瘍の光力学的診断薬として腫瘍の診断に有用なことから、経尿道的膀胱腫瘍切除術の前に投与されますが、血圧低下の副作用が報告されています。脊髄くも膜下麻酔は経尿道的膀胱腫瘍切除術によく用いられる麻酔方法であり、施行後に低血圧が生じやすい特徴があります。低血圧は臓器血流の低下につながることから、高齢者を主な対象とする経尿道的膀胱腫瘍切除術では血圧管理が特に重要です。

本研究は、脊髄くも膜下麻酔後の血圧変動にアミノレブリン酸が及ぼす効果を検討し、経尿道的膀胱腫瘍切除術での循環管理の安全性の向上を目的としています。

研究方法

2018年1月から2019年3月までの期間に京都市立病院において脊髄くも膜下麻酔施行下に経尿道的膀胱腫瘍切除術を受けた症例を対象とし、診療記録から得られたデータを解析します。この際個人が特定される情報はデータとして抽出されません。

抽出データは以下の通りです。

アミノレブリン酸投与有無、年齢、性別、身長、体重、ASA-PS、術前ヘモグロビン値、合併疾患、脊髄くも膜下麻酔に投与されたブピバカインの量、脊髄くも膜下麻酔の効果範囲、手術当日の収縮期血圧と拡張期血圧・心拍数、昇圧薬の投与量

本研究の対象となります患者さんにつきましては、調査に加えさせていただきたいと存じます。今後の当院での泌尿器科領域の麻酔管理の質の向上を目指した臨床研究ですので、何卒よろしくご理解とご協力をお願いいたします。本研究の結果は麻酔科学領域における学術集会および論文発表の形式で還元いたします。

さらに詳しい情報が必要な場合や本研究へのご協力がいただけない場合には、以下までご連絡をお願いいたします。

主任研究者	京都市立病院	麻酔科	副部長	佐藤雅美
分担研究者	京都市立病院	麻酔科	医員	柳澤力
	京都市立病院	麻酔科	医員	南野園子
	京都市立病院	臨床心理士		北野尚子
実施責任者	京都市立病院	麻酔科	部長	荒井俊之